



詠
詠
字
彙

人

文
138
三

5
709
36



割
門
號 708
卷 3

白雄坊選著
拙堂增補

俳諧寂琴卷之下

白雄坊選著

東京市立區大久保
餘町百拾貳番地
坪内雄藏

拙堂增補

○こころいある向の事

明治三十五年十二月五日

其一 情の夏

坪内雄藏氏寄贈

ほー合や何よはきこも人心

あまのこころい出するは涼きなり

上の巻よりわきまきみ色のこころい
世よあ情あしそかの色情餘情
のあらしひなりぬき通情とよし
私情を嫌ふとてこころいあなり



あゝ魂の心もつらきものぞききよ

是も昔事魂とりのよりのあやふたうふ
あまのれとこそとも一人のあ情ふらふ

杜鵑啼きもやちお現たを 公羽

是ちよすくまをわしひめをわしとてよ
あつしつとみもこれしと一乃通情
餘情とてあて一理茶をきき

補 蒼門のころろききあるものるくた
らぬそゆすくはあまのし思時
ろくし出せる終るを親娘とあて
長短をそこのあまをさくか

守二理屋の本

将信草茶巻下

あゝありのつ帆の心を抑哉

柴たのつ帆掛せうと極楽

かゝるがごとく洞のあるるのさ理屋
みらひるあや

補

せんとくた教もついのふ茶倉 支考

男たのつひと扱持てんむたのふ 小やよ

理屋をいつのやうあるるあれとも
理屋のあまらふあつあつありあつ
まらふてそをい遊をそるあ

守二のわくこの本

守二のわく

下二

候花よりみちるる東戸の柳印

夕風ふすの葉吹こむ入に哉

宵みりとも路向あきとみきり
あきともきりとも

猿鳴くよの葉吹こむ入に哉

かゝあきともきりとも夕風候候
しして樹物のさむしと伴は感後
かりつゝ自然のるしきりとも
似のさむしともきりとも

秋の香る尾上の松よすのほり

其角

智恩院のむく人掃と候ふを

信徳

こきりともきりとも自然のるまよし
候候きりともきりとも

補

六義云雅なちと秋とらと古今抄云
こきりともきりとも自然のるまよし
定家云曰雅の思ふゆをこきりとも
かきりともきりとも自然のるまよし

拈せぬの月くみりて流るるの

蘭更

あきともきりとも自然のるまよし

百明

あきともきりとも秋の香る智恩院の二白の
候候の候へともきりとも自然のるまよし
あきともきりとも自然のるまよし

あはれもけしきもくもあはれも
ともさく角信徳うらむもあはれも
向ふあはれ初めあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれも

其のゆゑのふゆゑのふゆゑのふゆゑ

縁をうらふとてくもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれも

けしきもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれも
あはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれも

まことのまらとけふ糸引 翁
 世にまらとけふ糸引 尚白
 夕ちや捨の白ひとまらと 及肩
 めしむはまらとけふ糸引 秋の雨 尚白
 あまのまらとけふ糸引 其角

時乃月

清あの上うらまの月 許六
 渡舟乃登るは引を繼 月 古根

馬のえてみれとらまの月 懐雪
 むらの月森とらと門をたきま 野坡
 つる人をとく待り月のまらと 半残
 名月や池をめぐりまらとから 翁
 十のあつとりのまらとを圍のほらまらと
 鶯のまらととまらと月のまらとまらと 一件
 あら猫のかけあつとれまらと月 大車

時乃風

木導
 草花雪
 園女
 野書
 荷兮
 小京女やみふよむふかへ帯
 安きしやまや館の衣ふく秋の氣
 こかししよ二日の月の吹ちぬを

かくはききぬ安ふよのあはら風か
 ぬ情をのりやうしあふさる時
 去秋よはきててのりまきう
 ころあ

補

初人の人歎きゆて先題のなむきと

けのひううなまら後且古物等の後
 をも同よへた人あゆむる
 も同よふい又後知んも妙
 そのたうてあうえさる
 半らぬへし君あま下回を
 己より先まの人もあふり
 の人あふ下後のこのあも
 る
 ありてす
 さうさす
 と
 越
 をけら
 けさ
 よく
 了
 名抄云後あけけは由只初人の

頃のころくありけるありとありのや
かこころのなつとも也是別丁章
及後よりのををさるひてかくせり
あつてせり
許六日みそひの曲輪をを飛出
作より曲輪の内よりなるその
より自然なるものなりある天
みしそ者おろし内ををある
時々等類あるある多くは
功ありかをあるすは
みちく得れとも是よりを安
あれ初めのよりかたとも
よくみのありあるなり
能くはあふとらるなり
安ふはあふなり
を自然なるなり

其五當をかを合せ未結のり

功ありけるものなり

ま柳やけさるぬる水のき

りのりほさるなり
あまをうけ合せ
みのりうらまをのあふなり

ほくまきやちんあやま

すしはを竹のふ酌のふひい 湖風

補 給けりやなると静あ秋の人 伯先

こころ未結のり

五ノ

下

七

補

梅福の出よろき世のたよる

翁

八つ鳴りやよき世の梅福翁 鳥明

こころの他のあをたせしるるこ

其六古事本古事のあはれをいふ

梅のやそのまきしてはなは

清女枕そのあはれ

まきしつちうたその梅あはれ舟のまき
とあはれそのあはれをいふその
古事本つちうたそのあはれ

ぬ句法あはれいりりりりり

園のあはれをいふはなは

文のあはれはなはのあはれ

あはれはなはのあはれ

あはれのあはれはなはのあはれ

補

草花もあはれいりりりりり

あはれいりりりりりりりりり

あはれいりりりりりりりりり
あはれのあはれいりりりりりりりりり

後のらひ麻長ふ瑞峰と云ふ人
とりの徳よりる結しとる意あふ
無とると結しとるあふとる日
夕神あ

常よりふらりの形かき 曉臺

みこの蠅をうふふ時をよし 古嬾

ひあはると思ひ入あふ山もふ 可都里

こまこまをまね

其七 是の文章あする未練の

手おらるる関を越たり如く

鶉路やゆきの鶉を極おけ

かくあふしるしとる何をのそあは
ありしとるしとる自然のあふ一の
中一の昔のしとるはあは終るあ
とるのあは

むよりくしとる極きや女部志 公翁

枯のあふあふそのしとる鶉路花 万平

こまこまをまね

補題 けりけり文章あまらるる事

角持や傾きを吞入牛の年

こまに海とらふまより牛の宮へいづこ
舟よあはれきて嘆せよ天鏡の

まよふあけよて然しうらまへ

夕を存すこほきぬや難子山

あはれとつより難しかくまをうら
是のあかりて西なまよ用もさうは

分の六川よきし花みる 重厚

人きり火とり比を接ちる 白雄

あはれまらるの初きみ眼あふ 樗良

夕まらる門ては秋とあふふり 嘯山

掃きや葎の中あもつふさ 士朗

文のあはれかきととと風韻あ
まらるのあはれ味あふ

其八作よすむ事

芳柳や水より人のほきり

あはれの耳をとり出さ 既中

こまに海とらふまよりのつらさを
餘情よまらるや古く曰はれよ
あはれの一はれ別一のあはれ

あしき一作の白あよあしきとて

其九二作を了なる事

ぬきさねらるる珠の初やおの初

あよ又酒き入珠也月今言

ぬきさねらるる声の初

月を珠とて又酒き入とてとての
初よのそかろとて初をりて餘情と
せん也

其十見立句の事

曲もや思もく細いけり

初も巻もや思もく屏風立あろ

あしきとてるるあしきとてあしきとて
あしきとてあしきとてあしきとて
あしきとてあしきとてあしきとて
あしきとてあしきとてあしきとて

補

月を柄をさしきふらしたる宗鑑

藤のそりかりき海人の髪これ 胡及

あしきとてあしきとてあしきとて
あしきとてあしきとてあしきとて
あしきとてあしきとてあしきとて
あしきとてあしきとてあしきとて

此の情に物なきはさきりあ義よりくる鳥の
体たり人へ八重は抄子鳥をたし人奇
なり或曰きくはるの体をかき
鳥の体らひくさる也

何れかえきよも似き二日の月 翁

月を柄とさくさくちそとを平そ
宗鑑らまよりのそかくさやさのそ

其土 さららるるたのそ句のそ又

何れか中ふしそ降る 十五白

はる衆のそひひ出でしあやひのそ
そらふのそまよふを老よるそ

中ふしそ降るをとあはし十のそ
そらふのそ中ふしそ降りしとあはし
はるよひのそ

をそひよき二日の月やそら振

二月二日たふらひのそあまふし二月二日
あはらふのそあはらふのそ

補或曰因はるのそあまふし二月二日
初らふのそあまふし二月二日
あまふし二月二日

弱きものよあまふし二月の月 去来

十のそらふのそあまふし二月の月 之道

山崎の...

山崎

こころをよめしは... 日さし...

其十二 句のうらの事

少のよめ... 接穂...

子... 接穂...

古... 接穂...

我... 接穂...

け... 接穂...

山崎から世... 接穂... 接穂

接の秋... 接穂... 横凡

古人曰... 接穂...

補

瓶... 接穂... 佛仙

夕... 接穂... 蓼太

山... 接穂... 藍村

山崎



又るのちあはれお出てもあふ
見風
鶴みよし人よらんも秋の暮
白雄

隣へはあぬやうあはれ
接穂丸
あはれしき白雄のり

くろくちや大よむらとも
天の門
是はゆきしるまきのあめを
かたど
るらむしつしあをば

露路沾産あそく
露路
産あそく

西行の若のあらしむと母の庭 翁

たのむるる庭をよし
あらしむと母の庭も
あらしむと母の庭も
あらしむと母の庭も
あらしむと母の庭も

其十三 うきむら

控あやうられの秋を
あし川やせせあらしむら

あし川やせせあらしむら
あし川やせせあらしむら
あし川やせせあらしむら
あし川やせせあらしむら

そとかんちのまよ

其十四もふ於てあまの事

そとほつものまよ（まよ）のまよ

あもすうはるるちかた軟んくくるまよ
あまのまよあまのまよあまのまよ

あまのまよあまのまよあまのまよ
あまのまよあまのまよあまのまよ

補 あまのまよあまのまよあまのまよ

あまのまよあまのまよあまのまよ

あまのまよあまのまよあまのまよ
あまのまよあまのまよあまのまよ
あまのまよあまのまよあまのまよ

蝶の舞はるる様うくるまよ 闇指

補

あまのまよあまのまよあまのまよ 藤白

あまのまよあまのまよあまのまよ

其十五一句の自他の事

あもすう川谷はじ細代也

あまのまよあまのまよあまのまよ

あもすう川谷はじの自他細代也
他の事あまのまよあまのまよ
川谷はじとあまのまよあまのまよ
あまのまよあまのまよあまのまよ

あまのまよ

二五

詞ありし面従さるのわふふ初ある
あつゝかゝのこゝを時を昨未とも
さきさきしつらふあを昨はくゝる
存を中ふの孫を中し 忘昨あ
判も始ふとふと 拙き 固陋あり
くゝる得く

其十六 一人を慮せある向のり

縁縁のあふふらぬ夜を我

かゝるい縁の女の自乃るちり

縁縁のさきく縁のあをさ

かゝるい縁の女の自乃るちり

のさあまてとて幸さる縁うね

ゆき情をいそんとともかふる白いせぬ
こゝろを縁の女のいひ出さるん
むあ〜んを

おととあま〜さら年ゆるね時を 望一

盲人の老をみりいへ

てね紙の向小志ある 昔の那 園女

女の老をみりいへ

い無少より人を志のり 静通哉 落枯

長良川の夕あ〜を ちら川のさる

経もあつて我もあつて旅人の心ふ
るさつひあつていふそく共歎きつゝ
老をいふも静の道に非つゝさか
りつゝそつゝなあそれしあつて

元りや家も静のちか御え 去来

環るくはれあつて人ち判り

秋もや向ふの弓小弦をらむ

老をいふも静のちか御え

是去来ゆふ四時かふるのあはれ
みごとくあつてそのふのさあつて

公家ゆふの音をゆふよ東の川の尾 翁

やうあつて海もあつてむ任座のあ

ふも筆電すゝとさあつてん世程

路者のあつてをみりあつて

ちる花を南をいふ静のちか御え 守武

集あつてあつてあつてあつて
其の角日唯一の静寂あつてあつて
鳴呼しつゝあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

守武辞世

身を捨よのちる虫あの高松を羅 平砂

こまじりの人いふ家門より他流や
唱へしことよましく不易の吟もあ
る夫由うかしくや

鳥もふああそこの森や春の雨 長翠

世よりすえの師老の梅もあまこころ 葛三

細草やほのかさゆたの椿さく 其堂

芹のちめてササ田持くまのる 巢兆

ふとあまのよふなまのる更衣 兀雨

辞を合まよひしと出く夕櫻 雨塘

花を折るんつくさひからまの 成美

露のうや朝のあまのほきれひ 乙一

よあまの癖をいふまの画をい 恒丸

あまの癖もあまの五月哉 完来

あまの癖もあまの春の金 岳輅

あまの癖もあまの春の金 青蘿

二月月浪のいふあまのきりま 羅城

朝白のひやくとさく垣根は 士朗

あまの癖もあまの春の金 大江丸

あまの癖もあまの春の金

下 三

夕立ちの逆江の猿舞をうたふ事	友國
朝をぬ田蓑のむらさき中より秋	瑞馬
秋空の戸ふみつけをよめる事	井眉
舟あがりぬむら月しる小田の宿	升六
青柳やよも草花を折らさげし	月居
秋をうたむむ雪の消さよ流る山	猿左
月よよい流るる刀根の氷百重	梅年
藤の芝の梳はゆらや梅西のほ	土卯
身ひよりよる秋の風やあまの月	定推

鶯の宿の卯割らんをさるる事	蒼此
よれたともしまき坂越る月あふり	其成
まめのかまらるるおよりかきいさ	丈左
猫の意をさめり物もねくまぬ事	樺堂
とらんそのや忘るる書きつる心地	道彦

石易り備あるそのと流りを備ふ
 はかりし子備あるそのと流りを備ふ
 娘のあやこはこいしとある 去帆の形念
 幼航の逢風形ありこいしとある 石易り
 流りたる事とある 石易りたる 返世の
 流者あるとある 石易りたるはり

石易り備

五言絶句

あま見入人らゝ得命

○

あゝの風をひらうらうらん秘のあや 誠拙禪師

角田川 ありの吟あり 惠然祥寺
あまの 見え乃とよせりとあまの
の強きを志る人さきであまの美を
よこさきをみく

俳諧寂榮卷之下終

其知 大立 静堂

俳諧寂榮貞外

十五の哉の事

歌の事 かくうらあゆーこけえさるあか

歌の事 別あまぬたー ほろろ

活定の事 統とと松のまゝうら月あか

替ききまのあまの事 野中か 山崎かのまらうらひらうら
たるあや

うらまをうらあか

吾の哉
活定の哉
頭のか
ウキタル
シガム
現在の哉
外
疑はせし
力をあか
替の哉

山崎みづ
月もなほ梅
うらなほ

梅のこぼれ
うらなほ
うらなほ
うらなほ
うらなほ
うらなほ
うらなほ

中ま
うらなほ
うらなほ
うらなほ
うらなほ
うらなほ
うらなほ

絲美の哉 蓮 瓶のせうお申ものほやれ

うらなほの絲美の哉
のたぐいしあまの
は種のかみ毎まかの意匠を切ると

嘆息の 牛 呵のそや小鴨たうゆの魚計

うらなほの牛
乃うらなほの魚計

難ひの 著の業白くそのかの名ふあまの

はくしうらなほの著の業白くそのかの名ふあまの

もこのねとはくし

あまのそや小鴨たうゆの魚計

あまのそや小鴨たうゆの魚計

こころの 此のゆもそや小鴨たうゆの魚計

あまのそや小鴨たうゆの魚計

あまのそや小鴨たうゆの魚計

あまのそや小鴨たうゆの魚計

あまのそや小鴨たうゆの魚計

あまのそや小鴨たうゆの魚計

あまのそや小鴨たうゆの魚計

あまのそや小鴨たうゆの魚計

ついでに

むらさきいねうらるる作よりのて切りの
みち

ふらしの牙の行をよほす武

うらうらい紫かくき梅のいづか

そのみまゆりさきうらうらあや

たうらひひくかかん

あふかみむかゆむか

こらうがさささ

そ入てウラスツ又フムユルウウウはく

おははるうきさび也申よも思あかこれ

哥みよるあのかしらあめ先せう

いづれもあなうみおりの

はくあなうみおりの

はくあなうみおりの

はくあなうみおりの

はくあなうみおりの

はくあなうみおりの

はくあなうみおりの

ついでに

ついでに

はくあなうみおりの

七つとこの治る首切のたぐひあはせ
あはれも吟してまゝ人しかりのよ歌の
治るのたぐひも首切まじりてあはれ
嘆息のたぐひも首切のたぐひあはれ
あはれも首切まじりてあはれ

獲新共

ひるなりも相合庭と枯草
庭根草のこころよくと時のた
志のたぐひも庭をのたぐひも
獲のて獲のたぐひも
庭もあはれも庭のたぐひも
庭もあはれも庭のたぐひも
庭もあはれも庭のたぐひも

南天ふふ草さつりて吟て殺れ

あはれいー人あはれとりのたぐひ

あはれいー人あはれとりのたぐひ

あはれの如くまゝのて吟てあはれ
あはれいー人あはれとりのたぐひ
あはれいー人あはれとりのたぐひ
あはれいー人あはれとりのたぐひ
あはれいー人あはれとりのたぐひ

あはれいー人あはれとりのたぐひ

あはれいー人あはれとりのたぐひ

かみのこくよまの 雁たをい
つらきいづらうきあそび
あそびの かなしきあそび

ゆきの卯を 野に

ゆきの卯を 野に 野に

ゆきの卯を 野に

ゆきの卯を 野に

十五のや乃事

歌のや 柳のしる 歌のよ

歌のや 柳のしる 歌のよ

歌のや 柳のしる 歌のよ

歌のや 柳のしる 歌のよ

歌のや 柳のしる 歌のよ

歌のや 柳のしる 歌のよ

花のうらみ

卅

雙長のや

花のうらみはさかしのうらみ
花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみ

拙堂曰北枝のうらみ
花のうらみはさかしのうらみ
花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

花のうらみはさかしのうらみ

下巻のや

水くさや燈も光もぬさくほや

吟してさあかしく

上巻のや

遠里のさるや業狩や朝かす矣

みねしゆのをみあはくしてらあたり

夜や秋も海へか捨るや時中 時

是たこのやと心てさうとみやうも
あはれとあのと一るの路を吟しして
あはれと初をとしをみり入るる
時中

下巻のや

以の流しきまゆやあはれこの槍 筆

あはれ時ゆ ささみや燈のたぐひあかり
空の家々や文うまをさのゆきあかり
あはれせらさしきもよのらのやあはれと
あはれ

口合のや

こもや世の媒ふたはゆぬ古合ま

吟してさあかしく 口合のや切らあま
あはれかきうぬといふり一棒の流り
あはれあはれ切り也 先あも出せし
口合のやさるるよりのを裁とも留る
あはれあはれをささしき人うこいのや
口合のやよく心てこよふかこるる
吟してさあかしく

親ひのや

人やまへ押さるる音乃木

ふしむかたしむしむかた

吟して来るるなりーおや鳴るるもは
のきくひおひりうりふらふらひの二や
あはれ是のゆゆもささささささささささ
まぢやまぢやんーやぢやかーはー
吾ぢやまぢーささのちくひひらうぢぢ
さあささささささささささささささ

やとりて

春あめや名もあふ山の雪の雪

吟して来るるなりー

やとりて

春あめや名もあふ山の雪の雪

吟して来るるなりーさうむやーよくぬて
このほろおぢや

とら

早もあまの国をさへもやぢぢぢぢ

是向ひのけさあまささささささ
ささささ

腰のや

昔の腰のやさささささささささ

腰のやさささささささささささささ
よのささよかかか其の中お梅のやさささ
ささささささささささささささささ
ささささささささささささささささ
あひ多く腰のやささささささささ
後ろを味してささ味をささささ

やとりて
捨也うり

行年や親お白髪をかきしま

年の涙も鵜川不見く昔あめ

のしもささささささささささささ

ふしむかたしむしむかた

廿

石女いしめの雛ひなあけくそいのいをいはいはいる

あししこくちゅうを
まかこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを

雨の雫あめしずくあまるとそののいをいはいはいる

あまのいをいはいはいる

あまのいをいはいはいる

はあししこくちゅうを

あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを

久ひさのいをいはいはいる

あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを

五合ごがうのいをいはいはいる

あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを

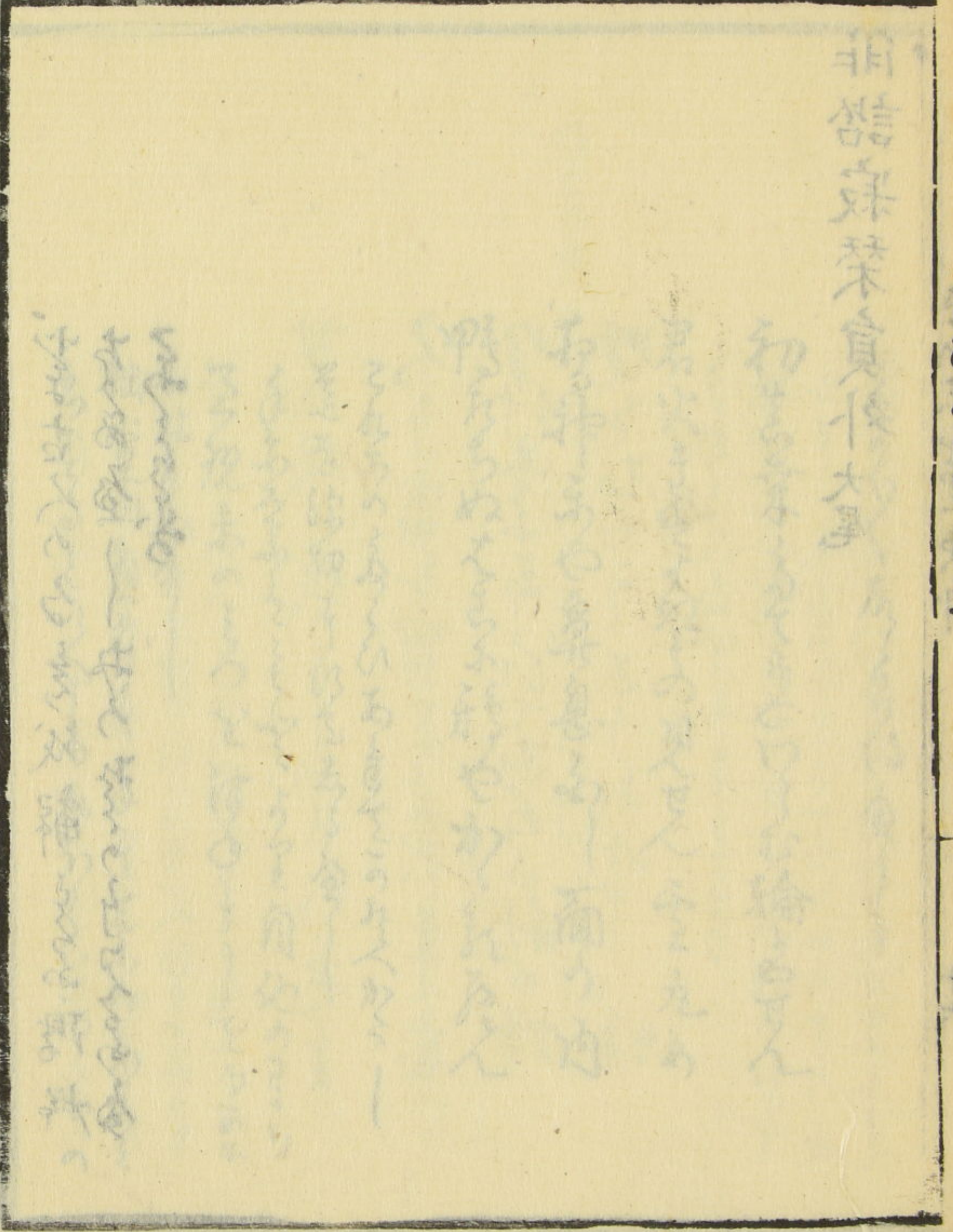
石女いしめの雛ひなあけくそいのいをいはいはいる

あししこくちゅうを

あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを
あししこくちゅうを

あししこくちゅうを

相繼錄禁食後大學



江都書林

下谷御成道

青雲堂英文藏板

小學本註	二冊	增補文語碎金	二冊	八面鋒	四冊
扶桑蒙求	三冊	宋名家詩選	二冊	晚唐百家絕句	五冊
題畫詩類鈔	二冊	香籛集	一冊	和歌題百絕	一冊
三大家絕句	一冊	蜀山先生詩集	一冊	<small>東征稿 西上記</small>	二冊
漫遊文章	五冊	昔々春秋	一冊	酒中趣	二冊
左傳凡例考	一冊	左傳比事	一冊	歲華一枝	一冊
歲華一枝拾遺	一冊	名乘字引	一冊	名乘字彙	一冊
略註五經字引	一冊	篆書字引	一冊	易學小筌	一冊
書家必用	一冊	書家錦囊	一冊	書家便覽	一冊

古韻通叶	一折	醫書之部	一冊
治痘論	一冊	治痘要論	一冊
治痘要方補遺	一冊	痘疹戒草	三冊
痘疹養生訣	一冊	續痘科辨要	三冊
痘疹要訣	一冊	方函	二冊
保嬰須知	二冊	雜書之部	一冊
種痘辨義	一冊	翁問答	四冊
日養食鑑	一冊	三省錄	五冊
世事百談	四冊	東江小倉百首	一冊
子昂真草十字文	一冊	隸書醉翁亭記	一冊
蘭竹画譜	二冊	光琳百圖	二冊
竹沙小品	一帖	刀劔圖考	二篇 一冊
刀劔圖考	一冊	甲冑着用辨	二冊
鞍鐙圖式	一冊	百姓袋	一冊
田畑調法記	二冊	古錢鑑	一冊
珍錢奇品圖錄	一冊	日蓮御一代記	一冊
三畏一心記	一冊	曆日講釋	一冊
八部秘講釋	一冊	歌書之部	
佛鬼軍 <small>一休</small>	一冊	貫之集類題	二冊
善惡種蒔和讚	一冊	千町拔穗	一冊

光琳百圖 <small>後編</small>	二冊	画圖撰要	三冊	一蝶画譜	三冊
蕙齋略画	二冊	刀劔圖考	一冊	刀劔圖考	二篇 一冊
裝劔備考	一冊	鞍鐙圖式	一冊	甲冑着用辨	二冊
貞丈家訓	一冊	田畑調法記	二冊	百姓袋	一冊
校正孔方圖鑑	一冊	珍錢奇品圖錄	一冊	古錢鑑	一冊
佛鬼軍 <small>一休</small>	一冊	三畏一心記	一冊	日蓮御一代記	一冊
善惡種蒔和讚	一冊	八部秘講釋	一冊	曆日講釋	一冊
歌書之部					
貫之集類題	二冊	<small>香川景樹集</small> 挂の落葉	二冊	<small>海野遊翁詠</small> 柳園家集	二冊
千町拔穗	一冊	園圃拔菜	二冊	萬葉用字格	一冊

靈能一貫

二冊

源氏物語系圖

一折

二冊

蜀山百首

一冊

仮名類纂

一冊

穂向屋集

三冊

俳諧之部

續故人五百題

二冊

掌中故人五百題

一冊

新五百題

二冊

新五百題

二冊

嘉永五百題

二冊

今人五百題

四冊

近世五百題

二冊

白雄坊五百題

二冊

今人百家類題

二冊

近世十家類題

二冊

名所千題集

三冊

題林發句集

四冊

十萬發句集

四冊

乙二發句集

二冊

曉臺七部集

二冊

發句古今撰

二冊

蒼虬翁句集

二冊

今人發句集

二冊

俳諧寂琴

二冊

饒舌錄

二冊

名家類題

四冊

一葉集

芭蕉翁一代集

五冊

一葉集

後篇翁之文消息

俳諧集草

十六冊

俳諧四季草

四冊

安政五百題

二冊

過日庵撰類題金玉集

四冊

風俗文選拾遺

二冊

梅澤先生手本向

一冊

庭訓往來

一冊

風月往來

一冊

千字文

一冊

消息詞

一冊

庭梅帖

一冊

御成敗式目

一冊

女今川

一冊

女雅俗要文

一冊

新三十六歌仙

一帖

雪後帖

一帖

新撰詩歌合

一冊

續撰朗詠集

二冊

實語教童子教

一冊

諸流手本向

同真名序

一帖

尊朝瀟湘景

一冊

大槁庭訓往來

一冊

